



変化への対応

理事長 野村 和成



世界は、昨年来の経済大不況で、日本も厳しい新年度を迎えました。メディアの報道、街の声は不況の話一色です。しかし、ただ手をこまねているのではなく、このようなときこそ、次に向けて行動すべきです。

『自助自立』を標榜するもえぎの会も厳しい環境にあり、多くの課題を抱えておりますが、行政、地域、関係団体をはじめとして、多くの方々のご支援を受け、連携して、一つ一つ課題を解決し、ステップを進めてまいります。

一昨年度は、「運営の安定化」、昨年度は、「積極的な展開」をイヤーモットーとして、活動してきました。課題は残っていますが、一定の成果を上げることができました。一昨年度は、障害者自立支援法が施行され、もえぎの会のスタッフも体制が一新され、若返ったため、運営が混乱しないように内部固めをしました。昨年度は、地域の要請に応え、法人の運営基盤を安定化するために、積極的に外部との連携、新しい事業の計画をしました。

そして、今年度は、「変化への対応」です。もえぎの会は、多くの問題に取り組み、大きな変化に直面しますので、うまく乗り切って進化したいと考えております。

障害者自立支援法に基づく新体系へ移行して新年度を迎えます。社員やスタッフが、日常の運営で混乱しないことが第一で、今までの課題を改善する機会ととらえて対応します。

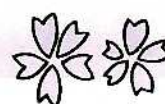
学芸大学店もおかげさまで、1月の開店以来、ご好評をいただいております。生産、販売とも、早く運営を安定化させるべく、社員、スタッフの配置や、生産工程の改善、設備の充実などに取り組んでいます。

目黒区の整備する中央町二丁目施設(6中跡地)の運営委託を決定していただき、来年4月の開設にむけて準備を進めます。公設民営のモデルケースとなり、目黒区の期待にこたえる運営をするためにきめ細かい計画を立てています。

新しいスタッフも加わり、さらに能力を向上させ、個別支援計画など支援の質と業務の効率を向上させる努力を重ねます。そのための環境の整備、業務の改善なども実施します。

外部に目を向けますと、障害者自立支援法の施行により、福祉サービスの運営主体は、国から区市町村に移管され、目黒区にも自立支援協議会が設立されました。その中で、目黒にふさわしい福祉サービスを充実させ、効率のよい、質の高い事業の充実のためにできる限りの力を発揮したいと考えております。そのために、地域の方々や多くの団体との連携をさらに密にしていく必要があります。

法律や制度が改正され、少しずつ改善されていますが、法律の趣旨に基づき、規制緩和、自由裁量により『自助自立』が生かされる土壌になっています。限りなく存在する地域のニーズに応え、利用者の更なる満足度を向上させ、法人運営の基盤強化のために、新しい事業を計画し、更に、挑戦を続ける所存であります。皆様の更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。



2009年度事業計画

施設長 渡邊 浩成

新しい年を迎え、早くも3か月が過ぎようとしています。今冬は、夏日があったり、真冬の寒さになったりして体調維持に悩まされた人は多いのではないのでしょうか？この時期は、しいの実社も新年度に向かって力を充電していますが、2008年度は大きな変革がありました。

○ 学芸大学店のオープン

東京都の基盤整備事業を利用して、作業場所の改修と併せて、1月21日(水)にお店をオープンしました。木のぬくもりと壁のレンガが調和した、おしゃれなものとなりました。毎日たくさんのお客さんがきてくださり、徐々に、馴染みのお客様も増えてきました。学芸大学東口商店街や鷹番町会の人に温かく迎えいただいています。手作り製品を、“美味しいから、良いものだから買ってもらう”を今後とも維持していきたいと思えます。近い将来、しいの実社の利用者が“いらっやいませ、ありがとうございました”といえる体制を作っていきます。

○ 障害者自立支援法に基づく新体系への移行

3月1日より、自立支援法の日中活動の中の就労継続支援B型と生活介護事業を1つの施設で行う多機能型としました。一つの部屋でパンと製菓を製造し、狭くなっていましたが、2つの部屋に分ける改修をし、スペースも設備も改善されました。高齢者が増え、静かで落ち着いた環境を新しい作業場所を実現できました。今後、さらに改善しながら、仕事に誇りを持ち、働く姿を維持していくというしいの実社の利用者にあった事業にしていきたいと考えています。

2009年度の事業計画は、この2つの事業の安定が中心になります。就労継続支援B型は、しいの実社と学芸大学店の2階の作業場を使った運営になります。2つの事業所で連携をとり、生産力を上げて利用者の工賃向上を目指します。生活介護は、仕事、作業の提供はもちろんです。職員配置を厚くして、利用者の特性に合わせた支援していきます。ウォーキングや体操など、体力を維持し、生活の幅を広げることを課題として進めます。

その為に、スタッフの支援力の向上に努めます。厚労省の新年度の障害福祉サービス報酬の中で、良質な人材確保、福祉・介護人材の処遇改善、サービスの質の向上に加算がつくシステムになりました。手厚い体制をとり、安心して任せただけの体制を整えるしいの実社の事業計画にとって、大変心強いことです。日中の場だけではなく、生活の場も含めトータルで支援できる組織の運営、スタッフのレベルアップにつなげていきたいと考えています。



しいの実祭報告

昨年11月27日に第7回しいの実祭を開催しました。当日は天気にも恵まれ、800名を超えるお客様に会場に集っていただきました。おかげさまで例年以上に製品の販売が好調で、この日のために、一生懸命製作に取り組んできた利用者、スタッフは大変満足でした。

また、今年初めての試みとして目黒区内の施設(大橋えのき園・下目黒福祉工房・中央町福祉工房・F C目黒・東が丘福祉工房)にも出店していただきました。多くのお客様が来てくださり、売上もよかったとのことをお声を頂きました。場所が狭くて今までできなかったのですが、お隣の白川電機さんのご協力により実現できました。

バザーへの寄付を下さった皆様、バザーの運営をしてくださった後援会、家族会の皆様、今年もおいしい焼きそばとフランクを出店してくださった清水町会の皆様、そして来場してくださった皆様、ありがとうございました。



土曜日開所

しいの実社では現在第1・第3土曜日に「土曜日開所」を行っています。土曜日開所では平日のような作業ではなく、主に外出や上映会、外食などを行っています。

それ以外にも昨年は8月にしいの実社の調理スタッフに協力してもらいカレーライス作りを行ったり、12月には品川を中心に活動している人形劇サークル「でかばっぐ」をお招きし、人形劇や南京玉すだれ、腹話術などを鑑賞しました。近所の学童クラブのお子さんもお招きいただき、社内に限らず地域の人にもお声かけをし、地域にも向けた企画としています。

土曜開所は希望者のみの参加としていますが、毎回25名前後の社員が参加し、企画によっては30名だったり皆さん楽しみにしているようです。

《カレー作り》



《目黒区歴史資料館》



《でかばっぐ公演》





大正鉄筋コンクリート株式会社



しいの実社からスープのさめない距離？にある、大正鉄筋さん。しいの実祭りの時は駐車場の世話になっている、心強いご近所さんです。

大正鉄筋さんはその名の通り創業は大正12年、昨年創立85周年を迎えられました。今回は5代目の代表取締役社長の阿部豊さんにお話を伺いました。

目黒本町が本社ですが、お仕事の舞台は日本全国で、火力発電所の煙突、石炭サイロ、セメント工場のサイロ、飲料水を入れるPCタンクなど、大きくて、背の高いものを設計施工されています。目黒区や渋谷区の清掃工場にある煙突も手がけられました。お仕事柄、地域限定ではなかなか受注が難しいので、全国に営業所や機材倉庫があり、約70名の従業員はほとんどが男性なもうなずけます。施工された構造物のパンフレットを見せていただきながら驚いてばかりでした。

商店街にオープンしたお店の盛況は、励みになりますねとお氣にかけていただいています。また、障害を持った人や施設と接したり話したりする機会を初めて持つことができたとおっしゃってくださいましたので、このような場があると知っていただき、また輪が広がったことは幸いです。

* 神戸市東灘処理場 卵型プレストレストコンクリート汚泥消火タンク



平澤製館所



平澤製館さんはしいの実社の主力製品であるパンに使用している各種のあんをいつも届けていただいている会社です。目黒区上目黒に本社・事務所がありますが、今回は横浜市都筑区にある横浜工場に伺い、三代目で営業担当の平澤公教さんにお話を聞きました。

創業は昭和25年、現在は従業員17名で生あん、練りあん及びフルーツ加工品の製造販売、和菓子の製造販売をしています。国内産の小豆、フルーツにこだわり、必要があれば北海道十勝の契約農家さんまで出向くこともあるという平澤さん、昔の「甘い＝おいしい」時代はあん糖度60度だったのが今は、日持ちとおいしさの兼ね合いから糖度45～50度になっている事、豆類は炭水化物、でんぷん質、繊維質が豊富で健康に良い事など話してくださいました。

しいの実社とのご縁は、平澤さんのお母様の知人からの紹介で遠藤施設長の時代に営業に来ていただいて始まりました。会社では以前、知的障がいの従業員が働いていたこともあり、また平澤さんが学生時代にボランティア部で障がい者と関わっていた経験から、今後状況が整えば障がい者の就労にも取り組みたい考えをお持ちです。

「朝、しいの実社へ配達に行った時、皆さんがいつも生き生きと仕事をしていると感じます。その作り手の気持ちがパンの顔に出る気がしますよ。スタッフも熱心で、この充実した現場の流れが今のままで続いて行って欲しいですね。」とのこと。これはパンだけでなくしいの実社の全ての製品にも当てはまる嬉しい応援のメッセージだと思いました。

萌木



株式会社 式典

東横線都立大学駅の改札口近く、大正14年創業の葬儀専門「式典」さんに伺いました。今回は2代目の中村茂社長にお話を聞きました。

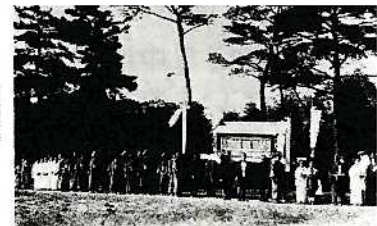
人生の幕を閉じて「旅立ち」のお手伝いして下さる、大変心を使うお仕事です。

中村社長ご自身が、身体障がいをお持ちの方と小さいころから親しくお付き合いされ、また「式典」の30周年記念の時にはご寄付をされたり、青年会議所でダンスパーティーを催したりと、さまざまな交流をお持ちです。「昔に比べ、障がいを持つ人も進んで外に出るようになってきていますね。お互いに偏見やコンプレックスを持たず普通に接する事が大切でしょう。」と自然体でお話し下さいました。

この業界での障がい者雇用については、社長も何かできることはないかと考えられたことがあったそうですが、なかなか難しく、実現までには至らなかったそうです。突発的な仕事で、室内作業は少なく、肉体労働がほとんどであること。時間との勝負的な仕事が主になること等々。24時間体制で日に数回重なることもあるそうで、体調管理もさぞ大変かと思われそうですが、中村社長の健康法は「薄着」なのだそうです。この冬はまだ一度もコートをお召しになっていないとか…。

人の心にふれる事の多いお仕事で、時代が変わり、家族形態や地域の様子も変わってきて、人の心も変わってはいないだろうかと感じられる時もあるそうです。また、マスメディアの影響でしょうか、コンパクトに簡素な葬儀をと、偏った情報が飛び交う昨今です。価格の面だけ取り上げて肝心の仏さまに対する尊厳の気持ちをおろそかにしてはいないだろうかと憂える時もおありだそうです。「人を思う気持ち、こころ」を思い出させて下さった訪問でした。

昭和初期に式典さんが手がけられた葬列の様子



新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ちいただくか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家



【イベント】

世話人 長谷茂雄

平成20年12月23日の祝日に洗足池公園まで散歩に出かけました。沙羅の家から洗足池までは大岡山駅を經由して徒歩で30分ほどの距離でした。天気はよかったですけど少し寒かったので足早に池の周囲の遊歩道を一周して大岡山へ戻り、商店街にある「ヒロベイ」で広島風(?)のお好み焼きを食べました。こちらのお好み焼きは定番のメニューにお好みのトッピングをすることが出来たので、「納豆」や「チーズ」など皆さん思い思いのお好み焼きで楽しみました。

さらに、平成21年2月11日には少し距離を伸ばして浅草へ出かけました。行きは日の出棧橋から水上バスに乗って隅田川を上り浅草へ向かいました。お客さんはほとんど乗っていませんでしたので浅草も観光客は少ないのかと思いましたが、雷門、仲見世、浅草寺は大勢の観光客であふれかえっていました。昼食には有名なお店はどこも大行列でしたので、六区にある「天健」というこぢんまりとした天麩羅屋さんで食事することにしました。お店はこぢんまりとしていましたが、天麩羅はとても大きく(厚さ5~6センチくらい)皆さんあっという間にペロリと平らげて大満足な様子でした。食後には浅草寺での御参りも済ませて仲見世で手焼きせんべいや黍団子などを食べ歩きして帰ってきました。

沙羅の家で外出を企画するとどうしても「食」がメインになってしまいますが、また楽しい(美味しい)イベントを考えていきたいと思えます。

【新しい入居者】

沙羅の家では2月に新しい入居者の塚越さんを迎えました。

塚越さんは、日中はしいの実社で織物やクラフト、製パンの作業をしています。自宅での生活とは違っているので少し戸惑いも見られますが、安心して暮らせるように工夫して支援していきたいと思っています。

沙羅の家もついに6名揃いましたので、これからも仲良く過ごしていきたいです。



編集後記

もえぎの会にとって、今年はまだ動きのある一年となります。スタッフ一人一人が力を合わせて、皆様のご指導を頂きながら着実に進んでいきたいと思えますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。(岡田なおこ)

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部) 電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

